

献血されたあなたへ

B型肝炎ウイルス検査の 結果についてご説明します



献血時の
ウイルス検査

Q&A

監修 武蔵野赤十字病院
院長
泉 並木

この冊子を
よく読んで、
一度、肝臓専門医を
受診することをおすすめします。

Q

献血時に血液検査(病原体検査)を行うのはなぜ？



A

献血した血液に病原体が入っていないかを調べ、輸血用血液に病原体が混入するのを防ぐためです。

病原体に感染している人の血液を輸血すると感染が起こることがあります。そのため、献血されたすべての血液に対し、さまざまな病原体検査を行い、輸血用血液への病原体の混入を防いでいます。

その結果、現在では輸血による病原体感染はほとんどみられなくなっています。



今回、あなたの献血時に行った血液検査(病原体検査)の結果、B型肝炎ウイルス(HBV)に感染しているか、過去に感染したことがある可能性がわかりましたのでお知らせしています。

病原体の感染を防ぐために行っている検査

- B型肝炎ウイルス検査
- C型肝炎ウイルス検査
- エイズウイルス(HIV)検査
- HTLV-1(ヒトT細胞白血病)ウイルス検査
- ヒトパルボウイルスB19検査
- 梅毒血清学的検査

Q

B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは何を調べるの？

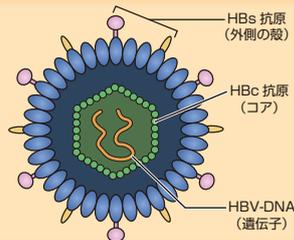


A

ウイルスがつくるたん白質やその抗体、さらにウイルスのDNAが血中に存在するかどうかを調べています。

B型肝炎ウイルスは球形のウイルスで、外側を被う殻（HBs抗原と呼ばれるたん白質が埋め込まれている）と、中心にあるコア（HBc抗原と呼ばれるたん白質）、その中にあるDNA（遺伝子）などから構成されています。

B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、ウイルスが増殖するときに自らがつくるたん白質や、それらを認識して感染を防ぐために体内でつくられる抗体、さらにウイルスの存在を示すDNAが血中に存在するかどうかで判断します。



HBV感染を調べるための検査項目

HBs 抗原	ウイルスの外側を被うたん白質です。陽性の場合、現在、HBVに感染している可能性があります。
HBs 抗体	HBs 抗原に対する抗体です。(HBVの感染を防御する働きがあります) 陽性の場合、過去にHBV感染したことがあるか、または、ワクチン接種によりHBVに対する免疫を獲得した状態です。
HBc 抗体	HBc 抗原に対する抗体です。陽性の場合、現在、HBVに感染しているか、または過去に感染したことがある状態です。
HBV-DNA	B型肝炎ウイルスの遺伝子です。陽性の場合、現在、HBVに感染している可能性があります。

※6 カ月以上持続してHBV-DNA あるいはHBs 抗原が陽性の人を**HBVキャリア**といいます。

Q

B型肝炎ウイルス検査の結果は何を意味しているの？



A

HBs 抗原陽性 (+)、あるいは HBV-DNA 陽性 (+) と判定された方は、現在、B 型肝炎ウイルスに感染している可能性があります。したがって、これらの血液は輸血用血液に使用しておりません。

HBs 抗原が陰性 (-) でも、ウイルス自身の存在を確認するため核酸増幅検査 (NAT)* で HBV-DNA を検査し、より正確な判定をしています。HBV-DNA が陽性 (+) の場合、感染していることが強く疑われます。

検査結果

HBs 抗原陽性 (+)

HBs 抗原陰性 (-)
HBc 抗体陽性 (+)
あるいは陰性 (-)

核酸増幅
検査 (NAT)*

**HBV-DNA
陽性 (+)**

検査の結果、HBs 抗原検査で陽性 (+) と判定された方は B 型肝炎ウイルスに感染していることが強く疑われます。

現在 感染している
可能性

あり

*ごく微量のウイルスを検出することができる検査

今後どうしたらよいかは **P6** をご覧ください

Q 検査結果は間違いないの？

A

輸血を受けられる患者さんのために、血液の安全性の確保の観点から疑わしいものを含めて陽性としております。医療機関で感染していないと診断されることもあります。今回陽性と判定された方は、一度、肝臓専門医を受診することをおすすめします。



日本赤十字社では輸血用血液へのウイルスの混入を防ぐため、B型肝炎ウイルスに対してはスクリーニング検査としてHBs抗原/抗体検査、HBc抗体検査、さらに精度の高い核酸増幅検査(NAT)を実施しています。

スクリーニング検査は少しでも見逃しのないように、疑わしいものを含めて「陽性」と判定しています。

そのため、本来は陰性にもかかわらず、

あたかも陽性として反応してしまうこともあります。

〔その要因はさまざま、より優れた試薬とするために試薬メーカーと協力し、原因追求と試薬の改良を日々進めています。〕

医療機関で診察を受けた場合、精密検査を行いより正確なウイルス感染状態がわかり、感染していないと判定されることもあります。

現在感染している可能性がある方は、一度肝臓専門医を受診し、精密検査を受けることをおすすめします。



Q すぐにしなければ ならないことは？



A

感染している可能性ありと判定された方は、
肝臓専門医を受診し、なるべく早く
「肝臓の状態」をチェックしましょう。

現在 感染している可能性が

ありと判定された方

あなたは HBV キャリア の可能性 があります。

肝臓専門医を受診し、「肝臓の状態」をチェック
しましょう。

B型肝炎ウイルスは肝硬変や肝がんの原因になる
ことがあるので、早期に肝臓専門医を受診する
ことが大切です。



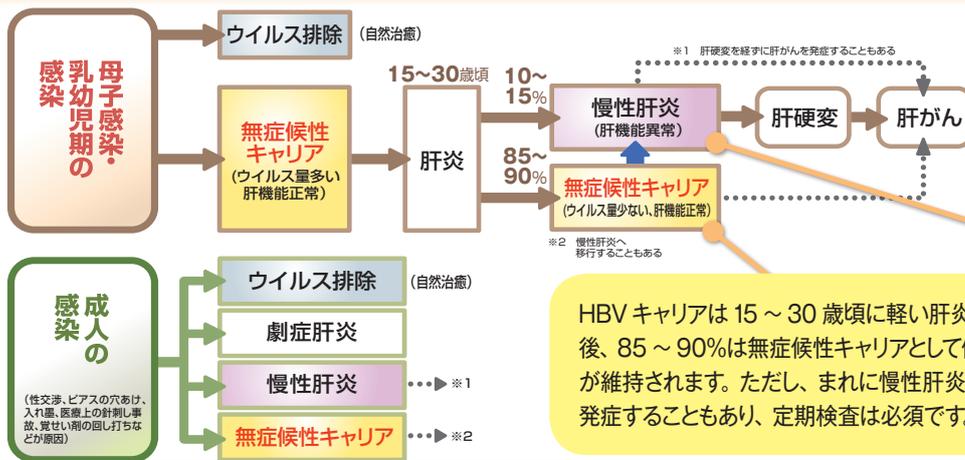
Q

B型肝炎ウイルスに感染していると、 今後はどうなるの？



A

治療が必要になることは多くはありませんが、慢性肝炎や肝硬変、ごくまれに肝がんを発症することがあります。きちんと対処すればその危険は低くなります。



慢性肝炎を発症するのは10～15%です。放置せず治療すれば病気の進展を抑えることができます。

HBV キャリアは15～30歳頃に軽い肝炎を起こした後、85～90%は無症候性キャリアとして健康な状態が維持されます。ただし、まれに慢性肝炎や肝がんを発症することもあり、定期検査は必須です。

●B型肝炎ウイルスの持続感染者をHBVキャリアと呼びます。日本には130～150万人のHBVキャリアの方がいると考えられています。「HBV母子感染防止事業」により、1986年以降の出生児への感染は極めて少なくなっていますが、大人になってからの感染も最近では増えています。

Q B型肝炎は治療できるの？



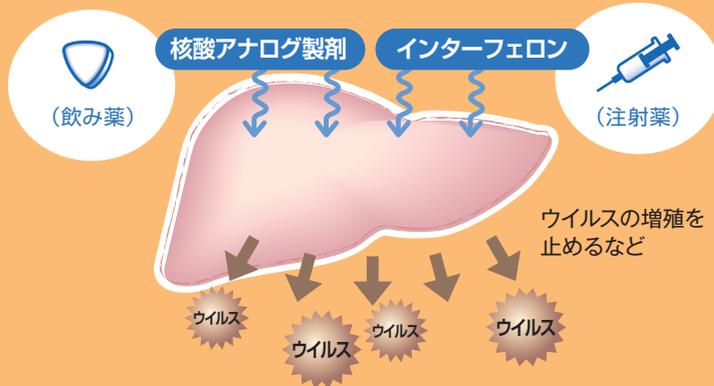
A

治療法は飛躍的に進歩しています。
治療にかかる医療費の助成制度もあります。

現在、B型慢性肝炎に対しては、核酸アナログ製剤内服やインターフェロン注射など有効な治療法があります。ウイルス増殖を抑え、ウイルス量を持続的に少ない状態に保てれば、肝硬変や肝がんの発症を防ぐことが可能になります。

肝炎に対する医療費助成制度

B型肝炎に対しては、肝硬変や肝がんへの進行を防止することが可能になるため、核酸アナログ製剤治療及びインターフェロン治療に対する、公費による医療費の助成制度が設けられています。



● 核酸アナログ製剤とは

B型肝炎ウイルスの遺伝子合成を抑え、ウイルス量を少なくすることができる飲み薬です。

● インターフェロンとは

B型肝炎ウイルスの増殖を抑えるとともに、免疫の働きを高める注射薬です。

Q

受診の結果、HBVキャリアと診断された人が 日常生活で注意することは？



A

健康管理を心がけ、他人への感染に気をつけましょう。
ご家族の方は、念のためB型肝炎ウイルス検査を
受けることをおすすめします。

B型肝炎ウイルスは、血液や
体液を介して感染します。

日常生活でいくつかの注意事
項を守っていれば、周囲の人
に感染することはほとんどあ
りません。同じ食器を用いた
り、入浴や洗濯物では感染し
ません。あまり神経質になる
必要はありません。

※ HBV キャリアのご家族の方は、念のため
一度 B 型肝炎ウイルス検査を受けることを
おすすめします。
医療機関、お近くの保健所にご相談ください。

1



血液が付着する可能性のあるカミソリや歯ブラシなどの共用は避ける。

2

血液や分泌物がついたものは、しっかりくんで捨てるか、流水でよく洗い流す。



3

外傷、皮膚炎、鼻血などではできるだけ自分で手当てし、手当てを受ける場合は血液や分泌物を、手当てをする人につけない。



4

口のなかに傷がある場合は、乳幼児に口移して食物を与えない。



5

献血は辞退する。



6

性行為で感染することがあるので、配偶者が感染を防ぐ働きをもっているか検査し、免疫がない場合にはあらかじめワクチンを接種する。



おわりに

日本赤十字社では、いのちを救うために欠かすことのできない血液を確保するため、皆さまに献血のご協力をお願いしています。

献血していただいた血液は、輸血用血液などに利用していますが、安全性を確保するため、さまざまな検査や対策を講じています。

本誌では、こうした安全対策の一環として実施している「B型肝炎ウイルス検査」について、その目的やあなたの検査結果について、ご説明しました。

献血のご協力に感謝するとともに、検査の結果をぜひあなたの健康管理にお役立ていただきますようお願い申し上げます。

日本赤十字社 血液事業本部